

みんなの“かたの”の夢

この基本構想における、めざす姿としてのみんなの“かたの”の夢。それは、市民としての夢、事業者としての夢、そして市職員としての夢をもとに、身近な人物像になぞらえた、いくつもの夢を描くことから始まっています。

一つひとつの夢は、決して大きなことが描かれているわけではありません。むしろかつてあった“かたの”を取り戻そうとするかのように、しかも、これからの時代に合った遊びのある、楽しい形で描かれています。

この夢をもとに、そこに込められたいくつもの要素を、基本方向における施策化の視点をふまえて整理し、みんなの“かたの”の夢としてのありたい姿をパターン化し「かたのサイズ”をめざす像」として示しました。

これらの像は市民や地域、団体、事業者、行政など多様な主体がそれぞれ該当するものを選択し、様々な活動の目的、成果としてのめざす姿に活用していくもので、これによって目的を共有しようとするものです。

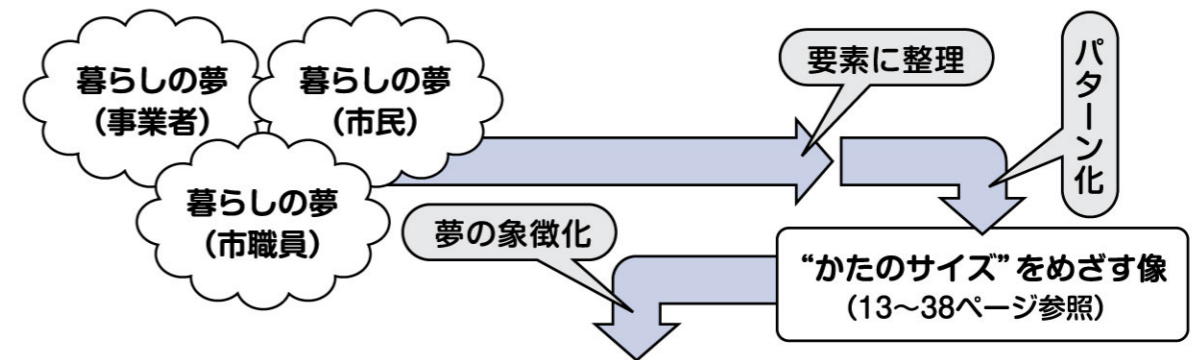
また、“かたのサイズ”をめざす像をもとに、「まちを味わう」「まちと暮らす」という、2つの夢を象徴的に示しました。まちのさりげない味わいを中心とする活動が多くの人をつなぐ、なりわい(生業)を中心とするほどよい活動が多くの人をつなぐ。つながりが共感を呼び、共感がつながりを呼び、“かたの”の暮らしの価値が大きく広がっていく。そしてやがてまちが賑わい、みんなでほどよい幸せを手に入れる。これがみんなの“かたの”の夢です。

『ほしのまち』

実里さん・冬華さん
彩音さん・楓さん(妙見坂小)

みんな

ららん
いいえがお
のんびり
かたのは
たのしいよ
のびのび
はたらく
たからの市
のやまも
しずかな
いいところ
よるのほしが かがやくよ



みんなの“かたの”の夢

まちを味わう

“かたの”の人は総じて和やかで、四季折々の行事にふれあいを楽しんでいます。豊かな自然と、軒先やまち角をもてなしの心でつらえているまちなみは、やさしさ、温かさを感じさせます。

子どもたちは道草を楽しみ、大人たちは思い思いに散策してまち遊び。ありふれた様子であいさつが交わされ会話が弾んでいます。地元の食材を使ったおいしいお店があちこちにあり、清らかな水から銘酒が生まれます。受け継いだ歴史やまちの素材は、様々なエピソードや物語を生み出していきます。

何か一つの際立った特色に依存しているわけではありません。手間ひまかけたほどよい魅力がひろがり、味わい深いまちの文化として育まれているのです。

まちと暮らす

“かたの”の持てる素材を活かしたいいくつものなりわい(生業)が、あまり環境へ負荷をかけない暮らしに必要なほどよい程度に営まれています。

農業、物産作り、食品加工、小売などいろんな分野で、家内事業、コミュニティビジネス、中小事業所、各種作業所など、多様な形の生業を通じたつながりは、個人、事業者、団体を問わず、学びの場、自治活動などにも広がっています。

障がいのある方も、高齢になられた方も、大人も子どもも、生業のつながりが、暮らしにかかわる様々な目的を担いながら循環しています。だれもが“かたの”の暮らしの中に、ほどよい活動の場としての自分の居場所をもち、まちと暮らしている実感にあふれているのです。

